

明治四年辛未十一月

萬國新聞

第五號

東京書林

北畠兵衛
中山兵衛

18
115
5



484
115
5

萬國新聞第五號

シヤパンガゼツト新聞

明治四年辛未十月十六日

天皇陛下横濱へ行幸の企ハ未だ確定せしよし且下顧
ル一同御延引此事ハ慥可聞ク

○

救助 サンフランシスコニ於て貧民へ施行せし高き千カ
ゴ一純へ十萬元ウイスコンシン純へ一萬五千元ミ千ガ
純へ六千元也○貸附方會社をサンジュークインウエルシ



一 紙の百姓可て取建るよし

左の書翰及び新貨幣量目表大英國辨理公使へ布告候事

譯文

去八月十九日附致以差進を以新貨幣量目比較表ハ少々算當違ひ有之候事付猶又別紙朱書之分改正致候依て此段申進候也

千八百七十一年第十一月廿二日

外務大輔

其職重シキ千八百七十一年第十一月廿二日 寺島宗則 花押

大英國辨理公使

エフ。チー。アダムス

貴下

銀二十圓	千個	純九百	敬百	瞳四百六十二	ゲイン九七	三十	グラムメス
同十圓	同	同九百	同百	同二百三十一	ゲイン四八	十五	グラムメス
同五圓	同	同九百	同百	同百十五	ゲイン七四	七	グラムメス
同二圓	同	同九百	同百	同四十六	ゲイン二九	三	グラムメス
同一圓	同	同九百	同百	同二十三	ゲイン一五	一	グラムメス
銀一圓	同	純九百	同百	同三百七十七	ゲイン四	二十	グラムメス
同五十錢	同	同八百	同二百	同百五十四	ゲイン四	十	グラムメス

日本造幣寮より出たる新貨幣ハ舊幣よりも餘程安き割ニ
非然也ハ運上所ニテ請取らハ夫故大ニ新貨幣信用を薄く
せり

日本商人ハ當年絹の貿易不景氣ニテ賣捌る所を哀痛せ
テ是れ全く製法不手際にして且流粗略な業者を互市場に
出ハル故也此商人等今年の如き不都合を除くべき爲ニ
改所を取建テ同所ニテ検査乃上輸出不相當の品ハ元方へ
戻ルようニ致度段通商司へ願ひ出たり
長崎と上海の間ニ海中國電信線ハ既ニ取掛也長崎と横濱
の間ニハく電電信線材料を既ニ詭られるもハ一個年内

この張掛を

日本政府みてハ東京にあはウエンリード氏の米會所を鎖
閉せしめむと欲し假令ウエンリード氏の企も米國みま
法律ニ觸ル事なしと元來法律ハ其國民ハ風儀ヲ節制
ハ爲めの者なりハ弊害を除くもと欲せハ必適應の法律
を立法へさハ各國ハ人民の普く知所なりと政府ニ於テ
決議し此國ハ政府と外國とハ條約面ニ背く事なしと外國
人民ニ説諭を加へり

此他の外國人米會所五個所並ニ日本人ハ會所二十個所ハ
政府ニ許容を得て其業を營め

右此一事ハ他の條約國人へ許して米國人之限り許容せらるの理なきハ必華盛頓府之於て上裁斷を乞ふ事あるを
し
横濱より江戸の間は鐵道より不絶人足を使役せり
横濱より神奈川まで三里の間之初めて引きたる蒸氣車ハ
大之用心して引きたり
大坂より神戸までの鐵道ハ速に成就せしむ
又京都より敦賀まで六十里の鐵道ハ其費二百萬圓より出
來候へし

日本政府ハジャパンタイムス新聞紙之出たは米國政府へ

對して過言の事付米國欽差へ詫い入れられた

日本商人ハ蠶卵紙の荷物半ハを焼き捨てて其相場を上る
むといひ

茶ハ買人なし

生糸ハ一擔より付二十圓とて賣品澤山あり

○

支那を政務に關りて更ふ新聞を天津近邊ハ大洪水
あり

ジャパンガゼット新聞第一千百八十六號

明治四年辛未十月八日刊行

ロオジルスと云者日本政府の法を犯し贖札を作りし罪に
因て明日合衆國領事官の目前より吟味あらせとの風聞な
り

横濱に於て淡清な流水を供給せよとの事あり吾輩喜て之
を布告せむと欲然生國奥州より某と云へる者横濱市中及
び異人館往還の地中へ鑛管を通し玉川より水を導るゝと
の事を請負あり其仕様高所を撰ひ大いなる漕溜を製造し
常なる水を貯へ置き其壓力を以て自由なる市中に井戸へ流通
せしめむと欲故に火災の時殊に重寶の豫防を欲し此
請負人の即ち此事業の金主として今日より七ヶ月の中

横濱市中に水道の鑛管を埋むべき事を約定しあり若し此
事業落成せば保險會社を頼みて終に多當時請負人の大利
を減却する事を得るべし

和洋行名録

右に書に來は一千八百七十二年に爲め洋行或は商會等來
る第一月一日迄に變化せし者悉く之を改正し第一月八
日よりに公行せし此名録は横濱東京兵庫長崎新潟及び箱
館の外國人商館に精細に記載し其外必用の事件に悉く掲
載しるべし通例の洋行名録の類に非はして殊に要用の書

なり

ジヤパンウヰーキリー。メー九新聞第四十八號

明治四年辛未十月廿日刊行

今般西國へ使節の長官岩倉公ハ此程右大臣ふ昇進せし右大臣な流者ハ太政官の第二等の官ニして其位直ニ大政大臣三條公ふ次く者なり
日本政府にてハ此度の使節を歐羅巴に送らむる爲めニ軍艦二艘ヲ出帆せしむる事ニ實ニ信用以てをき説なり然れト
又出帆の用意未だ整ハズ

○

先日米國海軍の官員 天皇陛下ニ拜謁せし者ハ人名左の

如し

海軍副提督 ジョーンロージルス

艦隊長 イデニツユルス

艦將 シイバルドウヰン

副令官 ダフリウケホウヰーシル

同 エツキエフゼツキン

同 シエムキエストル

同 オエフヘーエルメン

此外十三人名畧之

米公使デロングハ第十二月中ニ米國の飛脚船ヲ駕して本

